

文学分野

極東地域における文化交流

研究班代表

川合 康三

はじめに

川合 康三

「極東地域における文化交流」という問題をめぐって、この一年半、たびたび講演会、シンポジウムを開いてきた。それぞれのテーマは多岐にわたるが、通底しているのは日本、中国、朝鮮の歴史的な文化交流への関心である。

極東地域においては早くから中国が圧倒的な文化的優位性をもって、その影響を周辺の地域に及ぼしてきた。日本においても朝鮮においても、中国の先進文化を吸収し模倣することから始まり、やがてそこにおのずから中国との差異を懐抱したそれぞれの文化を築き上げてきた。したがってそこには中国と共通する性格とともに相違するところも顕現している。また中国に対してよく似た立場にあった日本と朝鮮の間にも、共通性と異質性がある。そのような諸相を一つひとつ明らかにしていくことを通して、文化交流というもののダイナミックな動きが把握されることだろう。

中国の文化的優位性は西欧近代との接触によって大きな変化を生じることになる。近代を受容する際に、日本・中国・朝鮮はそれぞれどのようなかたちをとったのか、それにも共通するところ、相違するところの両面がうかがわれるだろう。

今後もこのような問題意識を掲げながら、個々の事象を対象として論議を積み重ねていきたい。